令和２年度　年間授業計画　　東京都立小山台高等学校

教科名	芸術	科目名	美術Ⅰ
使用教科書・補助教材			
美術Ⅰ（光村図書）			

学年	授業形態
第一学年	必須選択

単位数	授業時数
2	78

学習目標	美術の幅広い創造的活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てると共に感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし美術文化についての理解を深める。

授業内容の概要

学期		単元名 学習項目	学習内容	家庭で学習すること（学習形態⇒確認方法） 学校で学習すること
一学期	一学期	デザイン 『飛び出すカード』	飛び出す仕掛けを理解し、楽しいカードを作る。 相手にメッセージが伝わる様にアイディアを を工夫する。 **＊４～５月の内容については、別途課題対応をする。課題の実施状況により、６月からの内容を適宜調整する。**	教科書をよく読み色々な事柄を調べ自分なり考えや意見を文章にまとめる
二学期	二学期	工芸 『額付スクラッチ』 絵画部分 下図つくり デザイン部分 工芸部分	作品と額の一体感が出るよう工夫し制作する。 動物、生物資料をもとに、鉛筆デッサンする。 バックは自由に発想し描く。 中の作品に合わせ、額をデザインする。 下図をスクラッチ板・額板に写す。 表現方法を工夫し、スクラッチする。 額板をデザインにあわせ彫る。額をカラー ワックスで塗装し仕上げる。 組み立て仕上げする。	色々な作品を積極的に鑑賞し見聞を広く、作品の下[作りに生かし 下図を作る
三学期	三学期	絵画 『自分のいるイメージ画』 『人物クロッキー』	過去・現在・未来のどこかにいる自分を イメージして作品制作する。 水彩画。技法１０を学び、自分のイメージに 合った技法を表現方法として取り入れる。 すばやく相手の特長をとらえ描く。	

評価の観点と方法	美術への関心、意欲、作品の発想力、製作技術、鑑賞の能力など総合的に評価する。

令和２年度　年間授業計画　　東京都立小山台高等学校

教科名	芸術	科目名	書道Ⅰ
使用教科書・補助教材			
『書Ⅰ（教育図書刊）』			

学年	授業形態
第１学年	必修選択

単位数	授業時数
2	78

学習目標	東洋独自の伝統芸術である書の美を学ぶことで文化・歴史を感受し、教養を育てる。 書写能力の向上と文字に関する基礎知識を深めることで、文化へのより深い興味・関心を育てる。古典作品に触れ、芸術に親しむ心を養い、情操を豊かにする。

授業内容の概要	学期	単元名 学習項目	学習内容	家庭で学習すること（学習形態⇒確認方法） 学校で学習すること
	一学期	書道の基礎知識 古典鑑賞と硬筆による臨書	●教科書の熟読。 ●様々な楷書の硬筆で籠字にとり、その感想を書く。	インターネットを使い、籠字の取り方等を調べる。 丁寧な作業を心掛け、その造形美を感じ取る
		オリエンテーション 書体の変遷 漢字の基礎知識 楷書法の基本用筆及び基本点画	●学習内容と用具・用材の基礎知識 ●書体の変遷の流れとその歴史背景との関連を知る。 ●筆順の大原則・特例・由来及び筆順と文字造形の関連について。 ●用具・用材の特性を知り、用筆・運筆法の実践。 →運筆・用筆の安定と完成度を添削によって指導・確認。	基本点画がコンスタントに書けるように繰り返し練習する。 添削を受け、不安・疑問点を解決し、より完成度を高める。
	二学期	楷書法・演習Ⅰ 楷書法・演習Ⅱ	●蘇慈墓誌銘・孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘臨書（楷書の基本結構） →字巾の変化の取り方の理解と実技を添削によって指導・確認。 →偏旁の基本的造形法の理解と実技を添削によって指導・確認。 ●雁塔聖教序と顔氏廟碑の比較的臨書 →執筆・運筆・用筆法の相違による表現の違いを知る。 ●牛橛造像記と鄭羲下卑の比較的臨書 →執筆・運筆・用筆法の相違による表現の違いを知る。 ●興味・関心を持つ古典を選び、その内容をよく観察し臨書。	古典をよく観察・鑑賞し、その用筆・運筆法を想像して考察を深める。 筆の回し込み・返し・腕法を滑らかに運筆できるように繰り返し練習する。
		行書の基本用筆及び基本点画 行書法・演習Ⅰ 行書法・演習Ⅱ	●行書の成立と特徴及び楷書の用筆・運筆法との相違の理解。 →筆の回し込み・返し・腕法と手法の習得。 ●集字聖教序の臨書（行書の基本結構） ●蘭亭序の臨書 →筆の浮沈を利かせ、回し込みと返しを正確に使って、文字の筆脈をとり、筆路を正確に読み取りながら運筆のリズムを習得。 ●興味・関心をもつ古典を選び、その内容をよく観察し臨書。 →各古典の用筆・運筆・結構の特長をしっかり習得・感得する。	筆の回し込み・返し・腕法と手法の要領をよく理解し、実践する。 筆路・筆脈を取ることを心掛ける。
	三学期	行書法・演習Ⅲ 創作 まとめ	●条幅作品（半切二行書き）の作成 →条幅作品を制作し、均衡構成を学習し、筆脈の貫通・文字の外形及び線の太幅の変化による行書の構成美を習得する。 ●作品構成の方法の理解と表現（色紙作品） →想像力を働かせ、しっかりと構想を練り、作品のイメージを固め、推敲を重ねて、個性を発揮した作品の制作。 ●清書作品をまとめて表紙をつけ、作品集を作成。	作品の完成イメージをしっかりと持てるように構想をよく練る。 推敲と添削を十分重ねる。

評価の観点と方法	★観点＝授業に積極的に参加し、課題内容に応じた表現が出来たか。また、その到達度。 ★方法＝課題の提出状況と到達度。学習態度・出席状況などを総合的に判断する。

令和２年度　年間授業計画　　東京都立小山台高等学校

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅰ
使用教科書・補助教材			
音楽Ⅰ改訂版 Tutti　教育出版			

学年	授業形態
1学年	必修選択

単位数	授業時数
2	78

学習目標	音楽を通して豊かな心と感性を養い、幅広い人格形成をめざす。合唱・器楽の演奏活動を通して、音楽を作り上げていく喜びを味わい、生涯にわたって音楽を愛好する心情を養う。

授業内容の概要	学期	単元名 学習項目	学習内容	家庭で学習すること(学習形態⇒確認方法) 学校で学習すること
	一学期	導入 世界の様々な音楽を知る。 楽典 **拍子、音価について** 器楽 キーボード① 鑑賞 弦楽四重奏曲	・教科書を概観し、西洋・日本のみならず、諸外国の音楽を知る。 ・教科書掲載曲、ﾓｰﾂｧﾙﾄ「ｸﾗﾘﾈｯﾄ五重奏曲」の鑑賞。 ・６つのｺｰﾄﾞﾈｰﾑを理解しｺｰﾄﾞを弾きながら簡単な旋律を弾く。 ・楽曲を形作っている様々な要素を学習する。	**・ﾜｰｸｼｰﾄへの回答。** **・楽曲を鑑賞し、各種ﾌﾟﾘﾝﾄ課題の実施。** ⇒　提出により評価。 ・8小節程度の簡易な曲を弾けるようする。 ・楽曲の形式（ｿﾅﾀ形式）の理解。 ・楽語の意味の理解。 ・ｱｺﾞｰｷﾞｸなどの音楽表現を感じとる。
	二学期	器楽・創作 キーボード② 歌唱 教科書掲載曲の斉唱。校歌（二部合唱） ｱ･ｶﾍﾟﾗ（四部合唱） 鑑賞 教科書掲載曲の鑑賞。 ﾐｭｰｼﾞｶﾙ鑑賞。	・1学期に学習したｺｰﾄﾞﾈｰﾑC,F,G,Dm,Em,Am 以外のｺｰﾄﾞも学習する。 ・旋律の創作。 ・自作品を弾けるようにする。 ・発声の基本を身につける。 ・斉唱楽曲の実習。 ・混成四部合唱曲の実習。 ・ｽｺｱﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞによる鑑賞 ・ｻｳﾝﾄﾞｵﾌﾞﾐｭｰｼﾞｯｸの鑑賞。	・与えられたｺｰﾄﾞﾈｰﾑに旋律を創作して楽譜にする。 ⇒　提出により評価。 ・ｻｳﾝﾄﾞｵﾌﾞﾐｭｰｼﾞｯｸに関する事前学習 ・毎回の授業で発声練習を充実させる。 ・授業者作成教材によるｱ･ｶﾍﾟﾗ実習。ﾊﾟｰﾄの音取りを生徒自らおこない合唱できるようにする。 ・楽曲の構造や、楽器についての理解を深める。 ・映像を鑑賞する。鑑賞に先立ち関連楽曲の歌唱実習もおこなう。
	三学期	合唱 ｱ･ｶﾍﾟﾗ（四部合唱） 鑑賞 ﾐｭｰｼﾞｶﾙ又はｵﾍﾟﾗ鑑賞。	・混成四部合唱曲の実習。	・鑑賞する作品について、各自で事前学習をおこなう。 ・二学期からの継続。ﾌﾚｰｼﾞﾝｸﾞや言葉の発音にも留意した音楽表現を目指す。

評価の観点と方法	・家庭学習でおこなった課題点。 ・ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ実技試験、及び創作課題点。 ・歌唱実技試験。二部合唱（校歌）。 ・歌唱実技試験。四部合唱（ｱ･ｶﾍﾟﾗ）

令和２年度　年間授業計画　　東京都立小山台高等学校

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅱ
使用教科書・補助教材			
MOUSA 2　教育芸術社			

学年	授業形態
3学年	選択

単位数	授業時数
2	78

学習目標	音楽の諸活動を通して、豊かな感性を養い、幅広い人格形成を目指す。音楽大学、教育系大学等の進学希望者に対応する実技内容や、芸術全般に汎用性のある感性や知的好奇心の育成をねらいとする。

	学期	単元名 学習項目	学習内容	家庭で学習すること(学習形態⇒確認方法) 学校で学習すること
授業内容の概要	一学期	ソルフェージュ 鑑賞 楽曲探究	・ピアノ伴奏つきの視唱課題を取り上げ、和声感覚も身に着ける。 ・正確な音程だけでなく、ﾌﾚｰｼﾞﾝｸﾞを理解し、ﾆｭｱﾝｽを伴った歌唱表現をできるようにする。 ・Beethoven symphony No.9を の第１楽章、第3楽章の学習。	・芸術に関する文章を読み、自らの観点で芸術観や作品についての論述をおこなう。 ⇒論述文提出 ・ト音記号による視唱実習。 ・Beethoven symphony No.9を score reading をしながら楽曲探究をおこなう。楽曲構成、和声構造等の分析を通し、斬新な手法で作られたこの作品の内容の理解をする。
	二学期	ソルフェージュ 歌唱 鑑賞 楽曲探究	・ピアノ伴奏つきの視唱課題を取り上げ、和声感覚を向上させ、ﾌﾗﾝｽ和声の。美しさも感じ取れるようにする。 ・正確な音程だけでなく、ﾌﾚｰｼﾞﾝｸﾞを理解し、ﾆｭｱﾝｽを伴った歌唱表現をできるようにする。 ・教科書掲載曲の実習。 日本歌曲、外国語曲を数曲扱う。 ・Beethoven symphony No.9を の第２楽章、第４楽章の学習。	・Beethovenと、この作品についての様々な観点による探究。 ⇒記述式の試験の実施 ・ヘ音記号を含む視唱実習。 ・symphony No9 一学期からの継続。この作品の世界観を掴めることをねらいとする。
	三学期	進路対応課題	・個々の進路目標に合わせた課題を実施する。	

評価の観点と方法	・実技試験 ・実技試験論述試験 ・ほか